

西日本を中心に甚大な被害をもたらした豪雨災害から1カ月半が過ぎた。被害が大きい広島、岡山の両県の被災地は、被害のなかった住宅街に隣接しており、そこだけ「エアポケット」のように非日常が広がっていた。日常との明暗が痛々しい被災地、支援するボランティアの様子を3回に分けて報告する。

【高尾真成】

返った。

## 現場から

### 岡山の被災地で

「疲れているんでしよが、気を張った状況が続いているね。考えられることもやらなきやならんことも山の難でできない要援護者

1級河川・高梁川に注ぐ小田川やその支流が4河川8カ所で決壊し、町の約27%にあたる約12平方キロが浸水、約4600棟が水につかった。短時間増水で、単独では避

# 被害激しく底見ええず

よつで」。今月初め、岡山県倉敷市真備町地区で、親族宅と被災した自宅を往復していた60代の男性は振り



ボランティアセンターの出入りとなった呉妹診療所も、柱や土壁がむき出しの状態だった。道路沿いには、被災した家屋から出たごみやがれなどが積み上がっていた。いずれも岡山県倉敷市真備町地区で

小田川は一部の河床を走らせている。

小田川沿いの同町尾崎にある「呉妹診療所」。この診療所には、ボランティアセンターの2011年6月か

後、東日本大震災の2011年6月か、ボランティアセンターの2011年6月か

土木学会調査団によると、真備町地区の推定最大浸水深は5・38メートル。阪神大震災の被災体験を交えながら、ボランティアの加藤

### 兵庫

兵庫からは、西宮市に本部があるNPO法人「日本災害救援ボランティアネットワーク」(NVAAD)などが豪雨直後から繰り返しボランティアバス

ボランティア休暇を

取得して参加した西宮市職員の畑文隆さん(54)は、東日本大震災後の2011年6月か

ら16カ月間、応援職員として宮城県南三陸町で都市計画などに携わった。「現地に来ない

とわからないことがあると想像以上の被害で、阪神大震災の被災体験を交えながら、ボランティアの加藤

鉄三郎さん(76)はこの日、高梁川に近く、浸水が深かったエリアで

「被災者が大き〜底が見えないという印象。地域によって復旧速度に差もある」と語

土ほごりが舞い、災